



「下町に現代美術」の風景

大阪・天神橋6丁目から

てんろく。純正の下町。正式には大阪市北区天神橋6丁目。そこに最近、「マルチメディア型のパブリックアート」が現れた。

長い長いアーケード街の北端、市立住まい情報センターや銀行が入る新しいビルの周囲に

市が配置したもの。「人が集う場所に」「商店街側の壁は楽しく」といった企画を託されたのが、神戸芸術工科大教授も務めた環境芸術家の山口勝弘さん(1928年生まれ)だ。

設置されているのは、久保田敏弘さんと石井勢津子さんの立体映像、クリストフ・シャルルさんの音響演出、それに山口さんの2点だ。その1つは、ビルの半屋外の吹き

抜けに取り付けられた光の出るステンレス彫刻。でも最も目立つのは、アーケードに面した公開空地に置かれた作品だろう。

ステンレスの本体に組み込まれたテレビモニターがずらり18台。

大阪城、通天閣、アメリカ村といった大阪の名所と、祭りや人々の暮らしが目まぐるしく映し出される。いわば「大阪百科」。モニター前に立つ透明な円柱の効果で、映像がゆがみ、左右が反転する。

しかも、いくつかの画面には商店街のライブ映像。本体のステンレスにも街の活気が映る。ときに、画面に自分の姿も。じっと見ているうちに、この街と大阪のさまざまな場所と時間が交わり、自分もその一部だ、という解釈が浮かんだ。

でも作品の前には公開空地への駐輪を防ぐためにチェーンが。その外側に自転車が並ぶ。作品には近づけるが、実際にそ

うする人は少ない。山口さんは「そばに寄って色んな発見をして欲しい作品だから、チェーンなしで済む妙案があればいいのだが」と話す。アートと自転車を巡る、そんな光景。(文・写真 大西 若人)

アートな出来事



①商店街から見た山口さんの作品。左の方の画面には大阪城が映っている

②吹き抜けの天井に付いている3つの立体も山口さんの作品。周囲にはシャルルさんの音楽が流れている

＝いずれも大阪市北区天神橋6丁目